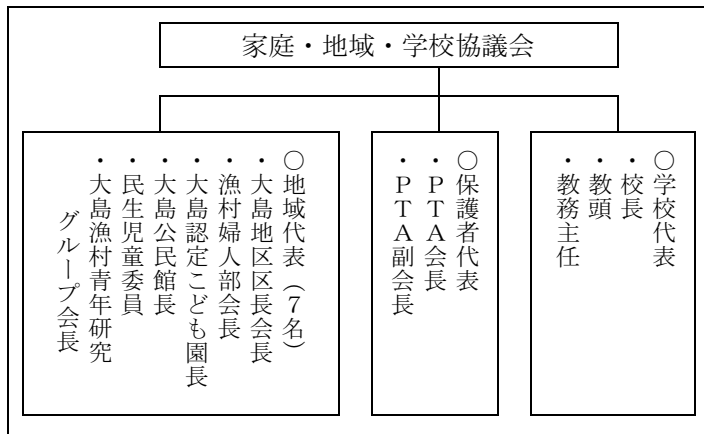


# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

おおい町立大島小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



地域コーディネーター(2名) 公民館長・PTA会長

### (2) 協議会の内容

- ※開催回数 年間2回
- ※開催日程 第1回 7月3日  
第2回 2月21日
- ※協議内容  
第1回
  - ・家庭・地域・学校協議会の趣旨説明
  - ・推進計画・学校評価第2回
  - ・学校評価の結果報告と評価
  - ・本年度の取組と次年度に向けて

### (3) 協議会における成果と課題

今年度は、学校行事のみだけでなく毎月の学校公開日や校内研究会にも全委員に案内を出した。児童の学校生活を参観する機会をもつことで、児童の様子を把握していただくことができた。

あいさつやネット利用の問題は、学校だけでなく、家庭や地域の連携を図りながら指導していく必要があることを共通理解することができた。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域の方とのつながりの中で、漁業体験や文化財の見学等を行い、自分たちの住むふるさと大島が自然や歴史的遺産の宝庫であることを理解し、ふるさとを愛し、それらを大切に守っていかうとする心を育てる。

### (2) 活動の実際

#### ①地引網体験学習(全校児童)

本校の地域学習のメインともいえる「地引網体験」は、今年で27回目を迎えた。今年度も10月5日、PTAの親子体験学習として実施した。

今年度は、事前学習として、グラウンドに実際に使う網を広げ、引く体験を行った。漁師さんからは、網を引く時の姿勢や海の中の網や魚の様子、手で触っては危険な魚などについて教えていただいた。

地引網体験の当日は事前学習をもとに全校で協力して網を引き、たくさんの魚を捕ることができた。その後、保護者とともに捕った魚を味噌汁や唐揚げ、煮つけなどに調理し、昼食として味わった。また、県内外から来られている釣り客にもふるまいふるさとの海の幸をPRすることができた。



## ②へしこ作りとPR活動（5・6年生）

地域の方の指導を受けてへしこを漬ける体験をした。へしこ作りには、塩漬けにする工程と、その後、糠漬けにする2回の工程があるが、5・6年生がそのどちらもの体験を行った。

5月には、6年生がへしこの漬け方やへしこを使った料理、へしこを食べることの良さなどをパンフレットにまとめ、昨年度漬けたへしこを真空パックしたものと一緒に修学旅行先で、海外の人も含め、観光客に直接手渡し、郷土料理のPR活動を行った。

児童からパンフレットとへしこを受け取った観光客には大変喜ばれた。初めてへしこの存在を知った方もおられ、修学旅行終了後に、お礼の手紙が学校に何通か届き、児童もふるさとをPRすることができたことに満足することができた。



## （3）地域コーディネーターの活動概要

### ○地域コーディネーター（2名）

- ・漁師 PTA会長、家庭・地域・学校協議会副会長
- ・公民館長 家庭・地域・学校協議会会員

### ○地域コーディネーターの活用概要

- ・地引網体験学習に関する指導・協力・支援
- ・地域体験学習の協力・支援

## （4）特に工夫した事項

自分たちのふるさと大島のよさを自覚し、更により多くの方に知ってもらおう活動にするために、修学旅行においてPR活動を行ったり、地引網体験時に、釣り客への魚料理のふるまいを行ったりした。

## （5）成果と課題

- ・6年生が修学旅行においてパンフレットと真空パックしたへしこを観光客に手渡しPRしたことや、地引網体験で釣り客に調理した魚をふるまい喜ばれたことで、自分たちのふるさとの良さを改めて実感することにつながった。また、全く知らない人に声をかけ交流することは、小規模校である本校の児童にとってコミュニケーション力の育成にも大きな効果があったと考えられる。
- ・本校の様々な体験活動は、親世代が同じ体験をしているものと、また、更に新たな取り組みとがあり、家庭での親や祖父母との会話への話題提供になっている。また、協力して下さる地域の方が児童の様子をよく知っていて、学校を離れてからの交流も期待できる。
- ・大島は、体験学習の宝庫であり、ふるさとに対する愛着心を抱くことはできたが、そこから課題を見出したり、自分たちにとってより良いふるさとを残すためにどのようなことができるかを考えたりしていくところまでは達していない。
- ・新学習指導要領の実施に伴い、体験活動を行う時間を如何に確保し、それをどう生かしていくかカリキュラムマネジメントしていく必要がある。